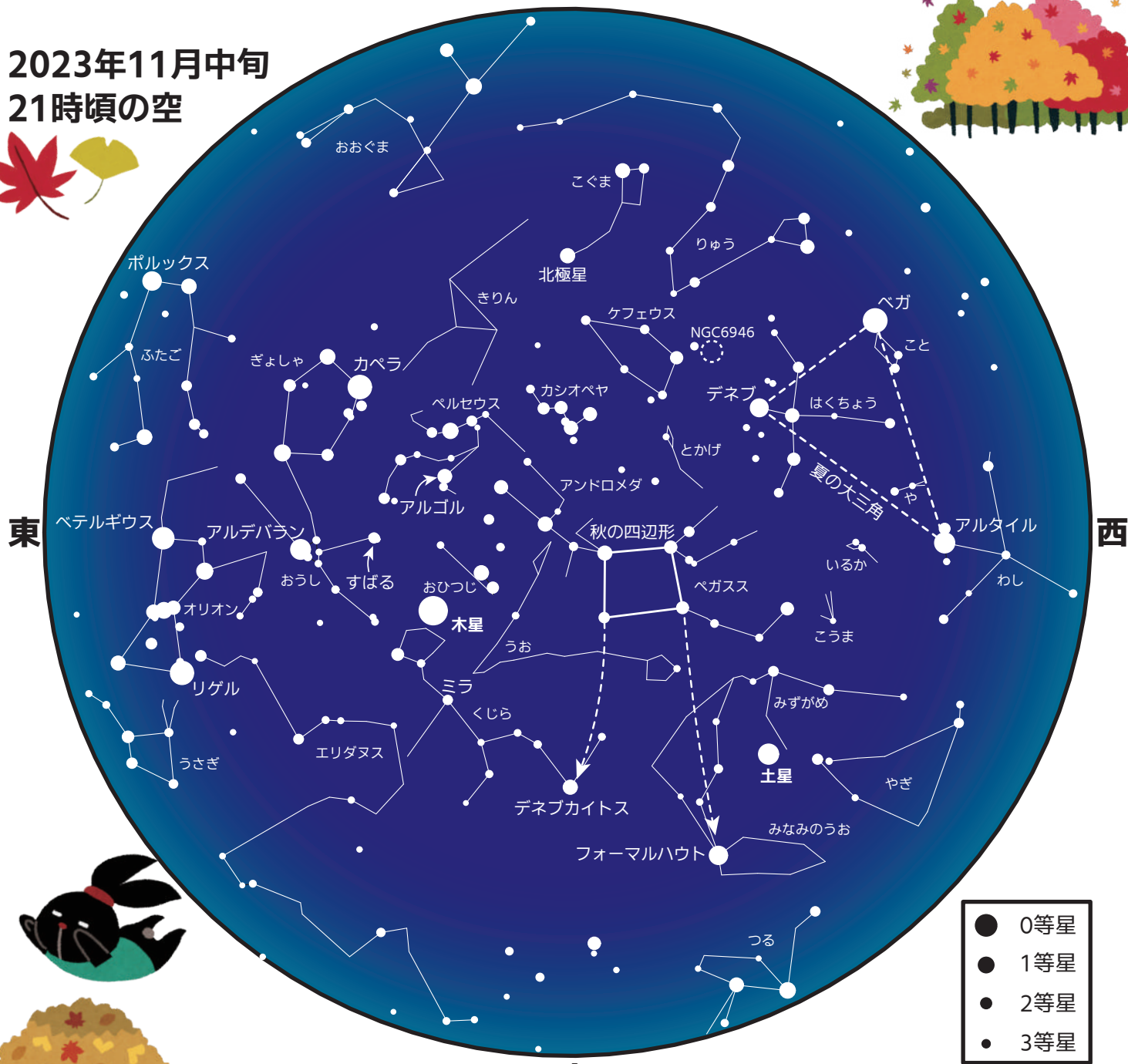


阿南市科学センター 11月の星空案内

北

2023年11月中旬
21時頃の空

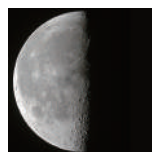


- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星

日に日に寒さが増し、秋もだいぶ深まってきました。今年11月の夜空には明るい惑星が2つ見えています。最も目をひく星は南東の空高くに輝く**木星**でしょう。明るさは約**-2.9等**で、この時間帯に見える星の中では最も明るくなります。3日にちょうど太陽と反対側に位置する**衝**をむかえ、一晩中楽しむことができます。また南西の空やや高くには**土星**も見えています。明るさは約**0.8等**と、木星に比べると控え目な印象です。その他に見ごろをむかえているのは秋の星座たちです。頭上近くに見える少しいびつな四角形は**秋の四辺形**と呼ばれ、空想上の生き物である**ペガサス座**の胴体にあたります。秋の四辺形西寄りの2つの星をのばした先には**フォーマルハウト**があり、ここには魚の星座である**みなみのうお座**があります。一方、東よりの2つの星をのばした先には**デネブカイトス**が輝きます。このあたりには**くじら座**がありますが、私たちが知るクジラとはかけ離れた姿で描かれることが多い星座です。どのような姿なのか、興味がある方はぜひ調べてみてください。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて 【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

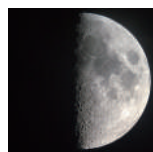
■ 11月の月の満ち欠けと惑星について



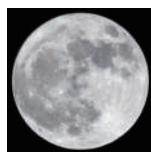
下弦
5日



新月
13日



上弦
20日



満月
27日

11月の天体観望会で月が見える日時は？



11/18(土) 18時の回で観察可能



11/25(土) 全ての回で観察可能

水星：日没後、西のごく低空に見える。【約 -0.4 等】

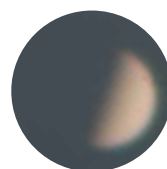
金星：日の出前、東の空やや高くで明けの明星として見える。【約 -4.3 等】

火星：見かけが太陽に近く、観察しづらい。

木星：日没後、東の空に見え、一晩中楽しむことができる。【約 -2.9 等】

土星：日没後、南の空に見え、日付が変わる前に西の空へ沈む。【約 0.8 等】

※惑星の等級は中旬頃の明るさ。水星のみ30日ごろの明るさ。



10月下旬に西方最大離角をむかえ、半月状の金星



■ 天文の話題・見ごろの天体など

★M45 すばる 散開星団 (おうし座)

今月の星空案内でぜひとも紹介したい天体がすばるです。すばるは100個以上の比較的若い星たちと、淡い星雲からなる天体です。すばるはおうし座にありますが、今年の秋ならではの見つけ方は、明るく目立つ木星からたどることでしょう。木星のもう少し東側にごちゃごちゃとした星の集まりがあります。双眼鏡で見るとひとつひとつの星たちまで見ることができます。

さて、すばるといって普段は枕草子のご紹介をするのですが、ある歌謡曲を思い出される方も多かもしれませんね。その曲中のワンフレーズに「蒼白き」とありますが、すばるも青白い姿をしています。星の色と温度には法則があり、高温の星は青白く見えます。昭和の名曲にも歌われた、本物の「すばる」をみなさんもお覧になってみてはいかがでしょうか。



写真1. すばる (撮影：A.Mihari)

★NGC6946 渦巻銀河 (ケフェウス座)

秋の星座であるケフェウス座の方向には、NGC6946という渦巻銀河があります。とても淡い天体で、当館の大型望遠鏡を用いてもその姿を見ることは難しいのですが、写真で撮ると華やかな姿を見せてくれます。この銀河は花火銀河とも呼ばれており、まるで夜空に打ちあがった花火のごとく、星たちが渦をなしている様子が分かります。

ところで、渦巻銀河は見る角度によって見た目が変わることをご存じでしょうか。そもそも渦巻銀河は身近なものに例えると、どら焼きのような形をしています。どら焼きを真上から見た姿の銀河をフェイス・オン、一方真横から見た姿の銀河をエッジ・オンと呼んおり、NGC6946はフェイスオンに該当します。フェイスオンの銀河はそれ以外に比べ、銀河全体が見やすく研究がしやすいという利点があります。NGC6946はハワイにある日本のすばる望遠鏡でも観測されており、銀河のどの部分で星が生まれているのかの研究がなされました。



写真2. NGC6946 (撮影：A.Mihari)